

Monthly Report

2018年8月号

特集 道路標識の活用

台風、豪雨などによりドライバーの視界が妨げられ、時として、運転の危険が高まる場合がありますが、このような状況でもドライバーに有益な情報を提供してくれるものに道路標識があります。今回は、この道路標識の積極活用について考えてみましょう。

1. 標識の種類

標識は、用途により大きく4種類に分類されています。

- ①規制標識 約60種類
規制条件を示しています。
- ②指示標識 約15種類
特定の方法に従って通行するよう指定しています。
- ③案内標識
道案内をしています。
- ④警戒標識 約45種類
内在している危険を表しています。

標識の種類が多いのは、交通ルールを示すだけでなく、安全運転に役立つ情報を、ドライバーに提供する役割を担っているからです。

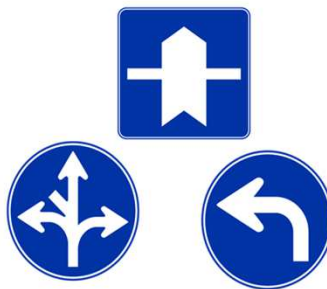
規制標識例



案内標識例



指示標識例



警戒標識例



国交省道路標識一覧より抜粋
<http://www.mlit.go.jp/road/sign/sign/douro/ichiran.pdf>
 (2018年7/3閲覧)



2. 標識が発する情報

最近では集中豪雨も頻繁に発生し、冠水による不幸な事故も起きています。

この対策として、冠水状況をセンサーで自動的に感知し、警告へ切り替えたり、進入を阻止したりと、危険回避機能を併せ持った情報標示システムが導入され始めています。



3. 標識をきっかけに『かもしれない運転』を

日頃の運転で、どれだけ標識を活用できているでしょうか。せっかくの標識の有益な情報も漫然と見過ごしている可能性があります。

交通事故の大きな要因に、このような漫然運転があります。漫然運転とは「いつものように何も起こらないだろう」と危険感受性が低下した状態で運転していることを指します。

標識を使い、この事故につながる漫然運転を改善する方法を考えてみました。標識を見つけたらその情報に対して意識して『かもしれない運転』のスイッチを入れ、必ず反応することを自分のルールにする。いかがでしょうか？

このことで、より安全な運転を実現できないでしょうか。是非、取り組んでみてください。



■標識をきっかけに『かもしれない運転』

- × いつものように誰もいないだろうから交差する道路の車が見えるところまで出て止まろう。
- 標識があるから、児童がこちらを気にせず飛び出してくるかもしれない。一度、停止線でしっかり停止しよう。



SOMPO ホールディングス
損害保険ジャパン日本興亜株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
ホームページ <http://www.sjnk.co.jp>

時間に余裕をもって、
「お・も・い・や・り」のある運転を！
みなさまの無事故を願っております。

エヌエスサービス（株）一同